

2022年度教育研究活動報告書

所 属	人文学部 心理臨床学科	職名	准教授	フリガナ	イシザカ マサコ	生年月	1978年9月
氏名	石坂 昌子	学位	博士（心理学）	専門分野	臨床心理学		
最終学歴	九州大学大学院人間環境学府人間共生システム専攻心理臨床学コース博士後期課程単位取得満期退学						
担当科目	フレッシュマン・ゼミ、心理臨床学の基礎、心理臨床学の展開、心理学、心理学概論、心理的アセスメント、感情・人格心理学Ⅰ、心理演習Ⅰ、心理実習Ⅰ、心理実習Ⅱ、心理実習Ⅲ、特別研究、卒業研究、心の健康教育に関する理論と実践、心理的アセスメントに関する理論と実践、心理実践実習Ⅱ、心理実践実習Ⅳ、心理実践実習A、心理実践実習B						
所属学会	日本心理学会、日本心理臨床学会、日本精神分析学会、日本教育心理学会、日本発達心理学会、国立医療学会、日本臨床死生学会、日本難病医療ネットワーク学会、日本健康支援学会、日本描画テスト・描画療法学会						
I 教育活動							
	教育実践上の主な業績	年月日	概要				
2014	1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）						
	(1) 学生からの意見や質問へのフィードバック	2014年4月～2015年3月	毎回、授業で学生へ感想・意見・質問などを記す出席カードを配付、回収し、その内容をふまえて、次回の授業開始時に前回の復習や質問への回答をした。双方向の授業展開となるように工夫しながら、学生の理解度を把握し高め、毎回の授業内容の改善に活かした（「心理学」「カウンセリング」「人格心理学」「精神分析学」「心理査定法」）。				
	(2) 視聴覚教材の活用	2014年4月～2015年3月	授業内容と関連した精神疾患や発達障害、医療などのDVDや絵画、音楽を視聴することで、学生の理解を深めたり、関連分野に対する関心・問題意識を向上させたりした（「心理学」「カウンセリング」「人格心理学」「精神分析学」「心理査定法」「心理学外書講読Ⅱ」「フレッシュマン・ゼミ」「心理療法特論Ⅰ」）。				
(3) 臨床現場の紹介	2014年4月～2015年3月	臨床現場での心理士としての経験や事例を紹介することで、あまり現場体験のない学生にも具体的に理解できるよう努めた（「心理学」「カウンセリング」「人格心理学」「精神分析学」「心理査定法」「心理学外書講読Ⅱ」「心理臨床学の基礎」「心理療法特論Ⅰ」）。					

2015	(1) 学生からの意見や質問へのフィードバック	2015年4月～2016年3月	<p>毎回、授業で学生へ感想・意見・質問などを記す出席カードを配付、回収し、その内容をふまえて、次の授業開始時に前回の復習や質問への回答をした。双方向の授業展開となるように工夫しながら、学生の理解度を把握し高め、毎回の授業内容の改善に活かした（「心理学（概論）」「カウンセリング」「人格心理学」「精神分析学」「心理査定法」）。</p>
	(2) 視聴覚機材の活用	2015年4月～2016年3月	<p>授業内容と関連した精神疾患や発達障害、医療などのDVDや絵画、音楽を視聴することで、学生の理解を深めたり、関連分野に対する関心・問題意識を向上させたりした（「心理学（概論）」「カウンセリング」「人格心理学」「精神分析学」「心理査定法」「心理学外書講読Ⅱ」「フレッシュマン・ゼミ」「心理療法特論Ⅰ」「心理療法特論Ⅱ」）。</p>
	(3) 臨床現場の紹介	2015年4月～2016年3月	<p>臨床現場での心理士としての経験や事例を紹介することで、あまり現場体験のない学生にも具体的に理解できるよう努めた（「心理学（概論）」「カウンセリング」「人格心理学」「精神分析学」「心理査定法」「心理学外書講読Ⅱ」「フレッシュマン・ゼミ」「心理臨床学の基礎」「心理療法特論Ⅰ」「心理療法特論Ⅱ」）。</p>

2016	(1)臨床現場の紹介・参加指導	2016年4月～2017年3月	<p>授業では、臨床現場の心理士としての経験や事例を紹介することで、あまり現場体験のない学生にも具体的に理解できるよう努めた。また、難病患者・家族会へ学生が参加し、会員との交流を深めたり、難病支援を体験的に理解したりするようにした。参加前に、難病についての基礎知識や患者・家族の心理の理解とかかわり方を講義し、参加後には、アフターミーティングを開き、学生自身が互いの体験を共有し、難病についてより理解を深めるようにした。</p>
	(2)学生からの意見や質問へのフィードバック	2016年4月～2017年3月	<p>毎回、授業で学生へ感想・意見・質問などを記す出席カードを配付、回収し、その内容をふまえて、次回の授業開始時に前回の復習や質問への回答をした。双方向の授業展開となるように工夫しながら、学生の理解度を把握し高め、毎回の授業内容の改善に活かした。また、授業の感想を紹介することによって、個々の学生が、他学生の理解を学び、自分自身の学修の振り返りともなる機会を設けた。</p>
	(3)視聴覚機材の活用	2016年4月～2017年3月	<p>まず、視聴覚教材を学修へ活用する意義を検討することで、学生の視聴へのモチベーションを高める一助とした。その後、授業内容と関連した精神疾患や発達障害、医療などのDVDや絵画、音楽を視聴することで、学生の理解を深めたり、関連分野に対する関心・問題意識を向上させたりした。視聴後は、授業内容と関連付けて解説をし、学生の感想・意見・質問を取り上げて全体にフィードバックをすることで理解の定着を図った。</p>
2017	(1)臨床現場の紹介	2017年4月～2017年11月	<p>授業では、臨床現場の心理士としての経験や事例を紹介することで、あまり現場体験のない学生にも具体的に理解できるよう努めた。</p>
	(2)学生からの意見や質問へのフィードバック	2017年4月～2017年11月	<p>毎回、授業で学生へ感想・意見・質問</p>

(3) 視聴覚機材の活用	2017年4月～2017年11月	<p>などを記す出席カードを配付、回収し、その内容をふまえて、次回の授業開始時に前回の復習や質問への回答をした。双方向の授業展開となるように工夫しながら、学生の理解度を把握し高め、毎回の授業内容の改善に活かした。また、授業の感想を紹介することによって、個々の学生が、他学生の理解を学び、自分自身の学修の振り返りともなる機会を設けた。</p> <p>まず、視聴覚教材を学修へ活用する意義を検討することで、学生の視聴へのモチベーションを高める一助とした。その後、授業内容と関連した精神疾患や発達障害、医療などのDVDや絵画、音楽を視聴することで、学生の理解を深めたり、関連分野に対する関心・問題意識を向上させたりした。視聴後は、授業内容と関連付けて解説をし、学生の感想・意見・質問を取り上げて全体にフィードバックをすることで理解の定着を図った。</p>
2019 (1) 臨床現場の紹介	2019年4月～2020年3月	<p>授業では、臨床現場の心理職としての経験や事例を紹介することで、あまり現場体験のない学生や心理職を目指す学生にも具体的に理解できるよう努めた。</p>
(2) 学生からの意見や質問へのフィードバック	2019年4月～2020年3月	<p>毎回、授業で学生へ感想・意見・質問などを記す出席カードを配付、回収し、その内容をふまえて、次回の授業開始時に前回の復習や質問への回答をした。双方向の授業展開となるように工夫しながら、学生の理解度を把握し高め、毎回の授業内容の改善に活かした。また、授業の感想を紹介することによって、個々の学生が、他学生の理解を学び、自分自身の学修の振り返りともなる機会を設けた。</p>
(3) 視聴覚機材の活用	2019年4月～2020年3月	<p>まず、視聴覚教材を学修へ活用する意義を検討することで、学生の視聴へのモチベーションを高める一助とした。</p>

2020 (1) アクティブ・ラーニング

2020年4月～2021年3月

その後、授業内容と関連した精神疾患や発達障害、医療などのDVDや絵画、音楽を視聴することで、学生の理解を深めたり、関連分野に対する関心・問題意識を向上させたりした。視聴後は、授業内容と関連付けて解説をし、学生の感想・意見・質問を取り上げて全体にフィードバックをすることで理解の定着を図った。

授業内で学生達が能動的に学ぶ手法としてのアクティブ・ラーニングを意図的に導入した。具体的には、事例検討やグループディスカッション、心理検査での被検者体験、プレゼンテーション後のディスカッション、オンライン上での質疑応答等が挙げられる。また、対面授業と遠隔授業の両方において、毎回の授業での学生からの感想・意見・質問を受けて次回授業開始時にフィードバックを行い、双方向的な授業展開となるように工夫しながら、学生の理解度を把握し高め、授業内容の改善に活かした。さらに、授業の感想を紹介することによって、個々の学生が、他学生の理解を学び、自分自身の学修の振り返りともなる機会を設けた。

(2) 日常生活・社会生活に活かす心理学の基礎的知識と技術の伝授

2020年4月～2021年3月

高校までは専門的にあまり学んでこなかった心理学について、1年次と2年次の授業では、音楽や絵画、映画等の視聴覚機材を用いたり、日常生活にそくした事例を提示したりして、心理学の楽しさや身近さにふれると共に、関連分野に対する関心・問題意識を向上させ、自分や周囲、社会と結び付けられるように促進した。3年次以降は、自己や他者に対する理解、日常生活・社会生活・臨床現場等での活用を念頭に、より専門的な心理学の知識と技術の修得を目標とした。また、先述したアクティブ・ラーニングを通して、自

(3) 公認心理師の現場をみすえた教育	2020年4月～2021年3月	<p>分の気づきや考え、思いを表現し、伝え、理解し合うことで、自己理解と他者理解のみならず自己と他者のコミュニケーションの深まるよう努めた。</p> <p>公認心理師実習前も含めて、授業内容と関連した精神疾患や医療等のDVD等の視聴覚教材の活用や、心理職としての経験や事例等の臨床現場の紹介等を通して、まだ現場体験のない学生や心理職以外を目指す学生にも具体的に現場を理解できるように工夫した。また、「心理学外書講読Ⅱ」での英語論文の読み方や院試対策、ゼミ生の院進学指導（臨床現場への貢献を視野に入れた研究計画書作成や面接対策等）、大学院生との共同研究も実施した。以上のように、臨床の実践と研究をふまえた心理職の養成を目指し、現場を意識した教育・研究を心がけた。</p>
(4) ハイブリッド型授業の取り組み	2020年4月～2021年3月	<p>COVID-19の感染拡大防止もふまえ、MoodleやZoomを使用しての遠隔授業と対面授業を組み合わせたハイブリッド型授業に取り組んだ。特に遠隔授業での学生と教員や学生同士のコミュニケーションに工夫が求められた。</p>
2022 (1) アクティブ・ラーニング	2022年4月～2023年4月	<p>授業内でアクティブ・ラーニングを実施した。具体的には、事例検討やグループディスカッション、心理検査での被検者体験、プレゼンテーションとその後のディスカッション、WEB上（Moodle）での質疑応答等が挙げられる。また、対面授業と遠隔授業の両方において、毎回の授業での学生からの感想・意見・質問を受けて次回授業開始時にフィードバックを行い、双方向的な授業展開となるように工夫しながら、学生の理解度を把握し高め、授業内容の改善に活かした。さらに、授業の感想や質問を紹介することによって、個々の学生が、他学生の理解を学び、自分自身の学修の振り返りともな</p>

<p>(2) 日常生活・社会生活に活かす心理学の基礎的知識と技術の伝授</p>	<p>2022年4月～2023年4月</p>	<p>る機会を設けた。</p> <p>高校までは専門的にあまり学んでこなかった心理学について、1年次と2年次の授業では、音楽や絵画、映画等の視聴覚機材を用いたり、日常生活にそくした事例を提示したりして、心理学の楽しさや身近さにふれると共に、関連分野に対する関心・問題意識を向上させ、自分や周囲、社会と結び付けられるように促進した。3年次以降は、自己や他者に対する理解、日常生活・社会生活・臨床現場等での活用を念頭に、より専門的な心理学の知識と技術の修得を目標とした。また、先述した(1)アクティブ・ラーニングを通して、自分の気づきや考え、思いを表現し、伝え、理解し合うことで、自己理解と他者理解のみならず自己と他者のコミュニケーションの深まるよう努めた。</p>
<p>(3) 公認心理師の現場をみずえた教育</p>	<p>2022年4月～2023年4月</p>	<p>公認心理師実習前も含めて、授業内容と関連した精神疾患や心理学、医療等のDVD等の視聴覚教材の活用や、心理職としての経験や事例等の臨床現場の紹介等を通して、まだ現場体験のない学生や心理職以外を目指す学生にも具体的に現場を理解できるように工夫した。以上のように、臨床の実践と研究をふまえた心理職の養成を目指し、現場を意識した教育・研究を心がけた。</p>
<p>(4) ハイブリッド型授業の取り組み</p>	<p>2022年4月～2023年4月</p>	<p>COVID-19の感染拡大防止もふまえ、MoodleやZoomを使用しての遠隔授業と対面授業を組み合わせたハイブリッド型授業に取り組んだ。両授業において、授業のレジュメや小テスト、授業動画をWEB上のMoodleで公開した。また、遠隔授業での学生と教員や学生同士のコミュニケーションにはMoodleのフォーラム等を用いて感想や質疑応答の場を設けて工夫をした。</p>
<p>2014 2 作成した教科書、教材、参考書 レジュメの作成</p>	<p>2014年4月～2015年3月</p>	<p>毎回、複数のテキストから独自に資料を作成、配付し、それにそって授業を</p>

2015	レジュメの作成	2015年4月～2016年3月	進めた。その際、パワーポイントで作成したり、最新の知見や図表などの視覚教材を取り入れたりすることによって、学生の理解度と学習意欲の向上を図った（「心理学」「カウンセリング」「人格心理学」「精神分析学」「心理査定法」「心理療法特論Ⅰ」）。
2015	レジュメの作成	2015年4月～2016年3月	毎回、複数のテキストから独自に資料を作成、配付し、それにそって授業を進めた。その際、パワーポイントで作成したり、最新の知見や図表などの視覚教材を取り入れたりすることによって、学生の理解度と学習意欲の向上を図った（「心理学（概論）」「カウンセリング」「人格心理学」「精神分析学」「心理査定法」「心理療法特論Ⅰ」「心理療法特論Ⅱ」）。
2016	レジュメの作成	2016年4月～2017年3月	毎回、複数のテキストから独自に資料を作成、配付し、それにそって授業を進めた。その際、パワーポイントで作成したり、最新の知見や図表などの視覚教材を取り入れたりすることによって、学生の理解度と学習意欲の向上を図った。
2017	レジュメの作成	2017年4月～2017年11月	毎回、複数のテキストから独自に資料を作成、配付し、それにそって授業を進めた。その際、パワーポイントで作成したり、最新の知見や図表などの視覚教材を取り入れたりすることによって、学生の理解度と学習意欲の向上を図った。
2019	レジュメの作成	2019年4月～2020年3月	毎回、複数のテキストから独自に資料を作成、配付し、それにそって授業を進めた。その際、パワーポイントで作成したり、最新の知見や図表などの視覚教材を取り入れたりすることによって、学生の理解度と学習意欲の向上を図った。

2020	(1) レジюме・動画の作成	2020年4月～2021年3月	<p>毎回、複数のテキストから独自に資料を作成、配付し、それにそって授業を進めた。その際、パワーポイントや動画で作成したり、最新の知見や図表などの視覚教材を取り入れたりすることによって、学生の理解度と学習意欲の向上を図った。レジюме・動画を作成後はMoodleに掲載して繰り返し視聴可能とし、学修効果の促進を心がけた。</p>
	(2) 「公認心理師実習の手引き」の作成	2020年4月	<p>2020年度より学部の公認心理師実習のカリキュラムが開始されるのに伴い、授業で使用する実習の手引きを他教員と共同で作成した。</p>
2022	レジюме・小テスト・授業動画の作成	2022年4月～2023年4月	<p>毎回、複数のテキストから独自に資料を作成、配付し、それにそって授業を進めた。その際、パワーポイントや動画、小テストを作成したり、最新の知見や図表等の視覚教材を取り入れたりすることによって、学生の理解度と学習意欲の向上を図った。レジюме・動画を作成後はMoodleに掲載して繰り返し視聴可能とし、学修効果の促進を心がけた。</p>
	3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし		
2014	(1) 福岡女学院大学臨床心理センターにおける心理査定のスーパービジョン	2010年6月～2015年3月	<p>臨床心理士指定大学院の実習機関でもある福岡女学院大学臨床心理センターで心理査定委託相談員として、臨床実習員の心理査定に関する指導を行った。心理検査の体験実習や所見作成の指導を通して、被検者体験の重要性を実感したり、データの読み方、所見の書き方やアセスメントに関する考え方を基礎から学べたりするように努めた。</p>
	(2) 難病患者・家族会への学生参加と指導	2014年11月～2015年3月	<p>難病関連の患者・家族会への学生の参加を通して、会員との交流を深め、難病に関する専門知識を学んだり、難病</p>

2015	(1)福岡女学院大学臨床心理センターにおける心理査定のスーパージョン	2010年6月～2016年3月	支援を体験的に理解したりするようにした。 臨床心理士指定大学院の実習機関でもある福岡女学院大学臨床心理センターで心理査定委託相談員として、臨床実習員の心理査定に関する指導を行った。心理検査の体験実習や所見作成の指導を通して、被検者体験の重要性を実感したり、データの読み方、所見の書き方やアセスメントに関する考え方を基礎から学べたりするように努めた。
------	------------------------------------	-----------------	---

II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月日	発行所又は発表雑誌等の名称(巻・号数を含む)	編者・著者名(共著の場合のみ記入)	該当ページ数
1 著書 なし					
2 論文 2014 看護職の死の意味づけに関する検討—看護経験年数による比較を通して—	単著	2015年3月30日	応用障害心理学研究第13号		pp.17-25
2015 大学生における自己愛傾向と抑うつに関連—反応スタイルに着目して—	共著	2015年12月10日	紀要VISIO第45号	◎石坂昌子・高野遥平	pp.11-21
2018 バウムテストの特徴および描画説明とレジリエンスとの関係	共著	2018年9月30日	健康科学研究第2巻1号	◎児玉恵美・吉岡和子・石坂昌子	pp.11-25
2019 大学生における劣等感と補償の関連	共著	2019年12月27日	紀要VISIO第49号	◎石坂昌子・藤森愛梨	pp.27-34
2020 看護職における死の意味づけとバーンアウトの関連—看護経験年数による比較を通して—	単著	2021年3月31日	心理・教育・福祉研究第20号		pp.45-53
3 その他					

2014	(1)神経難病のQOL—ALSとSEIQoL-DWに着目して—	単独発表	2014年8月29日	日本ブリーフサイコセラピー学会第24回熊本大会 ワークショップ「専門領域における心理療法」	
	(2)東日本大震災におけるスクールカウンセラーの活動報告	共著	2015年3月	東日本大震災震災派遣スクールカウンセラー報告書	報告書作成ワーキンググループ（日高崇博・進藤啓子他）他編著
2015	科学研究費助成事業・若手研究(B)・研究代表者「難病患者・家族のQOLに関するフィードバック面接の試み」(課題番号:15K17316)				
2016	(1)The process of talking about meaning of death on psychotherapy of a woman with amyotrophic lateral sclerosis (2)科学研究費助成事業・若手研究(B)・研究代表者「難病患者・家族のQOLに関するフィードバック面接の試み」(課題番号:15K17316)	単独発表	2016年7月27日	The 31st International Congress of Psychology・The 80th Annual Convention of the Japanese Psychological Association (Pacifico Yokohama) Poster Presentation	p. 236
2017	(1)Comparison of Baum Test and Resilience between Japan and Malaysia (2)Comparing Japanese and Koreans awareness about the psychological distance between university students and their parents (3)重度肢体不自由者	共同発表 共同発表 共同発表	2017年7月12日 2017年7月12日 2017年9月22日	The 15th EFPA European Congress of Psychology (RAI Amsterdam Convention Centre) The 15th EFPA European Congress of Psychology (RAI Amsterdam Convention Centre) 日本心理学会第81回大会	©Emi Kodama、Chong Gan、Masako Ishizaka、Kazuko Yoshioka ©KazukoYoshioka Haruka Nakamura、Emi Kodama、Masako Ishizaka ©糟谷知香江・石坂

	の心理社会的変化(1) —大学進学までのライフ ヒストリーから— (4)重度肢体不自由者 の心理社会的変化(2) —大学生活後半におけ る QOL に着目して— (5)科学研究費助成事 業・若手研究(B)・研 究代表者「難病患者・ 家族の QOL に関する フィードバック面接の 試み」(課題番 号:15K17316)	共同発表	2017 年 9 月 22 日	日本心理学会第 81 回大会	昌子・河津巖 ◎石坂昌子・糟谷知 香江・河津巖	p. 343 p. 344
2019	(1)難病患者の QOL に 関するフィードバック 面接の効果と課題—家 族による代理評価を通 して— (2)意思決定支援—心 理職の立場から— (3)科学研究費助成事 業・若手研究(B)・研 究代表者「難病患者・ 家族の QOL に関する フィードバック面接の 試み」(課題番 号:15K17316)	単独発表 単独発表	2019 年 9 月 11 日 2019 年 11 月 15 日	日本心理学会第 83 回大会 第 7 回日本難病医療ネット ワーク学会学術集会 シン ポジウム「意思決定支援」 講演		 p. 56
2022	(1)Internet Gaming Disorder-20 日本語版 尺度作成の試み	共同発表	2022 年 11 月 26 日	九州心理学会第 83 回大会 (オンライン)	◎田中夕理・石坂昌 子	
Ⅲ 社会的活動						
年月日		委員、講演テーマ・研修会、賞・表彰等の名称			所属、委託団体、授与機関 等の名称	
1 職務専念義務免除による活動						

2014	(1)2010年6月～2015年3月	心理査定委託相談員	福岡女学院大学臨床心理センター
	(2)2011年11月～2015年3月	臨床心理士	医療法人社団昭和会西岡病院
	(3)2011年7月～2014年9月	東日本大震災に係る宮城県緊急派遣スクールカウンセラー	宮城県教育委員会
	(4)2014年6月～2015年3月	臨床心理士	医療法人社団鶴友会鶴田病院
	(5)2015年3月	心理療法士	独立行政法人国立病院機構 熊本再春荘病院
2015	(1)2015年4月～2016年3月	心理査定委託相談員	福岡女学院大学臨床心理センター
	(2)2015年4月～2016年3月	臨床心理士	医療法人社団鶴友会鶴田病院
	(3)2015年4月～2016年3月	心理療法士	独立行政法人国立病院機構 熊本再春荘病院
2016	(1)2016年4月～2017年3月	心理査定委託相談員	福岡女学院大学臨床心理センター
	(1)2016年4月～2016年5月	臨床心理士	医療法人社団鶴友会鶴田病院
	(2)2016年4月～2017年3月	心理療法士	独立行政法人国立病院機構 熊本再春荘病院
	(3)2016年4月～2017年2月	非常勤講師（卒業研究担当） 熊本県精神保健福祉審議会委員	放送大学 熊本県精神保健福祉審議会
	(4)2016年9月20日～2017年3月 (5)2016年11月9日、16日	非常勤講師（面接授業「心理検査法基礎実習」）	放送大学熊本学習センター
2017	(1)2017年4月～2018年3月	心理療法士	福岡女学院大学臨床心理センター
	(2)2017年4月～11月14日	面接指導員（心理査定）	独立行政法人国立病院機構 熊本再春荘病院熊本県精神保健福祉審議会
	(3)2017年4月～2018年3月	熊本県精神保健福祉審議会委員	保健福祉審議会
	(4)2017年4月～11月17日	面接指導員	福岡県立大学大学院心理教育相談室
2018	(1)2018年4月～2019年3月	面接指導員（心理査定）	福岡女学院大学臨床心理センター
	(2)2018年4月～2019年3月	熊本県精神保健福祉審議会委員	熊本県精神保健福祉審議会
2019	(1)2019年4月～2020年3月	面接指導員（心理査定）	福岡女学院大学臨床心理センター
	(2)2019年4月～2020年3月	熊本県精神保健福祉審議会委員	熊本県精神保健福祉審議会
	(3)2019年4月～2020年3月	面接指導員	福岡県立大学大学院心理教育相談室

2020	(1)2020年4月～2021年3月	面接指導員（心理査定）	福岡女学院大学臨床心理センター
	(2)2020年4月～2021年3月	熊本県精神保健福祉審議会委員	熊本県精神保健福祉審議会
	(3)2020年4月～2021年3月	面接指導員	福岡県立大学大学院心理教育相談室
2021	(1)2021年4月～2022年3月	面接指導員（心理査定）	福岡女学院大学臨床心理センター
	(2)2020年4月～2021年3月	熊本県精神保健福祉審議会委員	熊本県精神保健福祉審議会
	(2)2021年4月～2022年3月	面接指導員	福岡県立大学大学院心理教育相談室
2022	(1)2022年4月～2023年3月	面接指導員（心理査定）	福岡女学院大学臨床心理センター
	(2)2022年4月～2023年3月	熊本県精神保健福祉審議会委員	熊本県精神保健福祉審議会
	(2)2022年4月～2023年3月	面接指導員	福岡県立大学大学院心理教育相談室
	2 公開講座、講演、研究会活動		
2014	(1)2014年5月21日	講演「精神科医療におけるアサーション」	南区精神保健福祉懇話会
	(2)2014年8月8日	2014年度教員免許状更新講習 こころの問題へのアプローチ～幼児・児童・生徒への支援と教師のメンタルヘルス～「心理アセスメントとカウンセリング」	九州ルーテル学院大学
	(3)2014年11月24日	医療講演会「こころをみつめるヒント―臨床心理士の立場から―」	熊本 SCD・MSA 友の会第
	(4)2015年1月22日	発表「カウンセリングの基本的スキルと応用」	第49回熊本遺伝カウンセリング研究会
2015	(1)2015年8月12日	2015年度教員免許状更新講習 こころの問題へのアプローチ～幼児・児童・生徒への支援と教師のメンタルヘルス～「心理アセスメントとカウンセリング」	九州ルーテル学院大学
	(2)2016年3月13日	熊本市難病医療相談会 「難病患者・家族のQOL支援について」	熊本市保健所医療政策課難病特別対策推進事業
2016	(1)2016年4月～2017年3月	世話人	熊本市難病・疾病友の会 (ボチボチの会)
	(2)2016年8月20日	2016年度教員免許状更新講習 学校と地域の教育相談「教育現場におけるカウンセリング」	九州ルーテル学院大学
	(3)2016年9月5日	司会者（口頭発表：臨床教育「長期緩和ケアにおいて心理士が果たす役割について―自らの死に方と生き方を決めた ALS（筋軸索硬化症）患者との面接を通じて―」	日本心理臨床学会第35回大会

2017	(1)2016年4月～2018年3月	世話人	熊本市難病・疾病友の会 (ボチボチの会)
	(2)2017年7月25日	こころの健康づくり計画研修会「アサーションー現状と対策ー」	独立行政法人国立病院機構 熊本再春荘病院
2019	(1)2019年10月12日	2019年度学部学科研究会「コミュニケーションとカウンセリング」	熊本学園大学
	(2)2019年11月30日	公認心理師・臨床心理士によるピアサポーターや相談員のための研修会「自己理解と傾聴」	熊本県難病相談・支援センター・熊本市医療政策課共同事業
2020	(1)2020年8月	2020年度教員免許状更新講習 こころの問題へのアプローチ～幼児・児童・生徒への支援と教師のメンタルヘルス～「自分を知り、他者を知る～心理的アセスメントの視点から～」	九州ルーテル学院大学
	(2)2020年8月20日	職員研修「精神面に関する難病相談・支援ー電話相談も含めてー」	熊本県難病相談・支援センター
	(3)2021年2月17日	職員研修「ストレスの理解と対応ーバーンアウトの視点からー」	熊本県難病相談・支援センター
2022	(1)2022年10月2日	司会者（口頭発表：事例研究 筋萎縮性側索硬化症療養者への訪問による「難病カウンセリング」）	日本心理臨床学会第41回大会
3 社会的表彰 なし			